みみはなのど通信

謹賀新年

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。皆様にとって、素晴らしい年となりますことを祈念しております。

例年、このみみはなのど通信は秋ごろにお送りしておりましたが、今回は内容を刷新し、新年のご挨拶を兼ねて送付させていただきます。

皆様のおかげをもちまして、京都みみはな手術センターを開設してから七年余り経過しました。世の中の変化の流れは更に加速しており、医療の分野も例外ではありません。どの分野でもそうですが、人間がこなしていた多くの部分が機械に置き換わるようになっています。かなりの思考力を要する囲碁においても、アルファ碁と言われる人工知能が、世界最強の棋士を打ち負かしたことも記憶に新しいことと思います。我々人間がやるべきことも、機械ができる単純作業的な仕事から、クリエイティブな仕事をより手掛けていくべきなのかもしれません。

当院も、引き続き現状を打破して新たなことに挑戦するという姿勢でやってゆきたいと思いますので、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

第9回みみはなCUP in 田辺カントリー倶楽部
優勝 もりおか耳鼻咽喉科医院 森岡稔勝先生

台風十五号の進路によって寒気が列島に流れ込みました。ここ数日のうだるような残暑が一気に秋の気配に変貌です。そして、九月三日(日)は、あっぱれの快晴！

例年は、雨・台風の余波に悩まされるこのコンペも、今回は参加メンバーもうれしい当て外れでした。

私は毎回、地区医師会の会務が重なるため土曜日の学術会はパスし、コンペにのみ出席するというちょっとズルイ参加です。

今年は、毎年大分県から参加される堀文彦先生と廣芝新也先生が同伴メンバーでした。

堀先生は、スタートのロングでいきなりのバーディー、さすがでした。午後のドラコンが受賞もうなずけます。廣芝新也先生は、ラウンドが年二回のみとは思えない切れのいいスイングショット、ただお二人とも田辺カントリー倶楽部の景色から来る視覚のマジックと高速グリーンに翻弄されたようでした。幸い私は、地区医師会の先生方と月イチここでラウンドを重ねていたメリットと午後のスコアの乱れはダブルペリアのHDCPの恩恵に与りお陰さまで初優勝をいただきました。ありがとうございました。

他二組の参加メンバーは、準優勝とニアピン獲得の田村芳寛先生、ディフェンディングチャンピオンで飛ばし屋の後藤英一郎先生、さすがのベスグロの村上匡孝先生、ニアピン、ドラコンには必ず絡んでおられた岩永愛様、今回は紅二点のお一人でした燻し銀の樋口清子様、そして、いつも細やかなご配慮の事務長、山田昌彦様です。九名というアットホームで顔と名前が即一致するコンペも大変楽しく、いい日曜日を過ごさせていただきました。

この「みみはな会」はアカデミックな先生方と気楽にお話ができる機会をいただけるのも楽しみの一つです。いよいよ来年は、第十回の記念大会ですね。おめでとうございます。次回も大盛会！この会のますますのご発展をお祈りしています。

平成二十九年九月吉日
森岡 稔勝

第9回関西みみはなのど治療研究会

関西みみはなのど治療研究会は毎年九月第一土曜日に開催されています。今回は九回目の開催となり、特別演題として二題ご講演いただきました。一題目が京都府立医大眼科の渡辺彰英先生に「眼窩周囲の疾患とその治療」、二題目が京都大学がん薬物治療科の金井雅史先生に「ゲノムと人工知能（ＡＩ）を用いたがん個別化治療の可能性」をご講演いただきました。

渡辺先生には、耳鼻科との境界領域である眼窩周囲疾患、特にBlow-out fracture や副鼻腔手術における眼窩内損傷についてご講演いただきました。国内でも眼窩形成外科という領域を手掛けておられる先生は限られ、渡辺先生はその領域において第一人者の先生であり、我々耳鼻科医にとっても非常に貴重な講演内容でした。個人的には、眼窩壁の再建素材としてスーパーフィクソーブというハイドロキシアパタイトをベースとした素材を用いておられる点、kinetic MRI を用いて、眼位調整や眼球運動の評価を行っている点が非常に興味深いと思いました。

金井先生には、これまでの抗がん剤の進歩や分子標的剤、チェックポイント阻害剤についてのお話と、膨大な治療データからいかに効率よく個々に合わせた薬が選択できるかを、人力ではなくＡＩを利用して行うということについてお話しいただきました。また、オプジーボを始めとした最近の薬剤は非常に高価であり、医療経済の面からもいかにして効率よく治療を行うかについても言及されました。非常に重要な視点であると感じました。

今年も九月一日土曜日に、リーガロイヤルホテル大阪で開催予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

手術実績と満足度

術式	‘17年	‘16年	‘15年	‘14年	‘13年	‘12年	‘11年	‘10年
鼓室形成術	117	125	117	125	125	131	102	51
アブミ骨手術	12	5	7	8	11	4	3	2
鼓膜形成術	9	6	1			3	2	2
ESS	156	136	122	93	67	66	75	13
粘膜下下甲介骨切除術	227	250	205	187	135	128	103	27
後鼻神経切断術	115	151	138	124	91	103	90	27
鼻中隔矯正術	194	207	172	140	109	98	86	25
外鼻形成術	2		4	1	4	9		
甲状軟骨形成術	94	99	133	124	35	14	6	
喉頭微細手術	8	4	8	3	1	2		
その他	18	19	24	17	14	18	5	

平成29年度に手術を受けられた患者様の満足度

平成29年度耳術後満足度　平成29年度鼻術後満足度　平成29年度のど術後満足度

Webサイトに医療従事者専用窓口を設置

当院Webサイトリニューアルに伴い医療従事者の方向けのコンテンツを作成致しました。お悩みの症例・手術の適応などについて、ご相談されたいことがございましたら是非、ご利用ください。

また、ご紹介いただける患者様がございましたら当院Webサイトより診療予約申込書（診療情報提供書）をダウンロードのうえ、FAXにて予約申し込みください。

FAX番号
0774−64−0872

相談専用フォーム
QRコード

外来名	担当医	相談曜日・時間
中耳・難聴外来	岩永・廣芝	木曜日　午前診
嗅覚外来	荻野	火曜日　午後診（14時～17時）
音声外来Ⅰ	一色・田邉・廣芝	木曜日　午後診（13時～16時）
音声外来Ⅱ	廣芝	火曜日　午前診
手術相談外来	廣芝・荻野	火曜日　午前・午後診 木曜日・土曜日　午前診

※第一木曜日を除く

――最近の取り組み――

耳科領域

・鼓室形成術における内視鏡の積極的併用
・多血小板血漿（PRP）の鼓膜再生への利用

鼻科領域

・感冒後嗅覚障害に対する臨床試験・olfactory training
・好酸球性副鼻腔炎に対する手術の工夫
・Airway Medicine（副鼻腔炎と喘息の同時治療）
・小児に対する鼻閉改善手術

音声領域

・声帯萎縮、瘢痕に対するPRPの局所投与の効果についての研究
・チタンブリッジによる甲状軟骨形成術Ⅱ型
・その他音声疾患に対する喉頭形成術
・田口亜紀先生（松山赤十字病院）による音声治療

海外学会活動

◆IFOS2017@パリ

六月後半に四年に一度の学会であるIFOSに廣芝が参加して参りました。演題数は三〇〇〇以上で、最終日のgala dinnerはルーブル美術館貸し切りで行われるという、何とも豪勢な会でした。痙攣性発声障害に対する甲状軟骨形成術Ⅱ型の治療成績について、口演して参りました。パリへの訪問は実は初めてで、観光もかねて楽しめました。次回二〇二〇年バンクーバーで開催予定です。

◆World Laryngology Summit@バンガロール

九月の二十日から二十五日までバンガロールにて開催され、田邉正博先生と廣芝が招聘されたため出席して参りました。インドも初めての訪問でしたが、最近IT業が盛んになり、発展の勢いを感じさせる街でした。インドの方々は非常に親日的で、音声領域については特に熱心に議論されていました。ただ、時間やプログラムが突如変更になることには、日本人の感覚では非常にビックリでした。

◆World Rhinology Congress@香港

九月一日から三日まで香港にて開催され、荻野が参加し、鼻中隔と外鼻の形状の年齢変化について、ポスター発表を行いました。鼻副鼻腔の手術分野においては、世界中から集まった著名な術者によるdissectionのライヴが三日間を通してあり、一日中会場にいても飽きないプログラムでした。また、夜は、香港代表とのサッカーの試合、大人数で楽しむ飲茶や北京ダック三昧などを楽しみました。

論文執筆

荻野枝里子、廣芝新也、岩永迪孝「Sino-Nasal Outcome Test (SNOT-22) 日本語版の信頼性・妥当性・治療反応性の検討」（日耳鼻会報 120:1155-1164,2017.）

鼻副鼻腔炎の自覚症状調査票として海外でひろく用いられているSNOT-22の日本語版を作成し、その妥当性の評価について報告いたしました。

著作権の問題で使用するまでのハードルがやや高いものですが、鼻閉、鼻汁等の主症状のみならず睡眠、精神症状まで含まれたユニークな調査票で、当院では術前調査と術後のフォローアップに用いています。詳細は日耳鼻会報二〇一七年九月号に掲載されています。

医師紹介

東家 完（とうや ゆたか）先生

経歴／
2005 熊本大学医学部卒業
2007 熊本大学耳鼻咽喉科勤務
2012 米国ウィスコンシン大学研究員

平成二十九年一月から勤務しております。平成十七年に熊本大学医学部を卒業し、国立病院機構熊本医療センターで初期臨床研修を終えた後、熊本大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局致しました。熊本大学では主に声帯麻痺についての喉頭領域の臨床、研究に力を入れ、途中2年間は、声帯粘膜について米国ウィスコンシン大学での研究活動を行いました。

この度、音声学、音声改善手術についてさらなる研鑽を積むべく、当院の門を叩いた次第です。諸先生方にご指導頂きつつ、これまで私が得た知識、技術について還元できればと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。

林 正彦（はやし まさひこ）先生

経歴／
1976 京都大学医学部卒業
1977 天理よろづ相談所
1981 倉敷中央病院
1984 京都大学医学部附属病院
1987 滋賀県立成人病センター耳鼻咽喉科部長・副院長

皆さまご存知のとおり、甲状腺腫瘍など、頭頸部外科を専門とされてきた先生ですが、耳鼻咽喉科すべての領域において豊富なご経験を活かした外来診療をしていただいています。

月曜午後、水曜午前の外来を担当していただいています。

京都みみはな短期滞在手術センター
一色記念ボイスセンター

医療法人顕夢会 ひろしば耳鼻咽喉科
〒610-0355　京都府京田辺市山手西 2-2-3 日東西ビル 2F-3F
TEL：0774-64-0789　FAX：0774-64-0872
http://www.hiroshiba.com/